

# ピロリ菌と胃の病気

講師：臨床検査技師

## 1. ピロリ菌は胃・十二指腸以外にも悪影響を及ぼす

ピロリ菌は胃や十二指腸などの消化管だけでなく、全身に影響を及ぼすことが分かってきた。今ではピロリ菌に感染していれば「ピロリ菌感染症」と診断し除菌すべきと考えるようになった。

## 2. ピロリ菌と関係のある病気

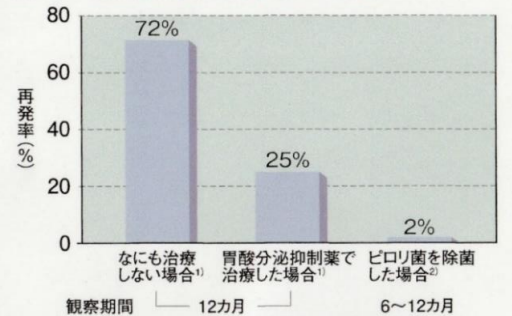
### 胃炎・萎縮性胃炎

胃炎はピロリ菌がいると程度の差こそあれ胃炎になる。ほとんどの人は無症状です。萎縮性胃炎は胃炎が長年続き胃壁の粘膜が変化した状態で、胃がんが発生しやすくなる。除菌によって少しずつ改善する。

### 胃・十二指腸潰瘍

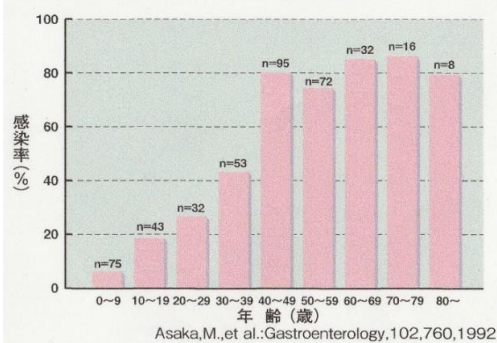
胃炎などで粘液が不足すると胃潰瘍ができる。また、胃酸の影響が十二指腸に及ぶと十二指腸潰瘍になることもある。症状はみぞおちの辺りの痛み（特に空腹時）や食欲不振です。

胃・十二指腸潰瘍を再発する人の割合



観察期間 12カ月 6~12カ月  
 1) Freston, J.W., Am J Gastroint, 12, 1242, 1987  
 2) Tytgat, G.N.J., et al.: Gastroint Clin North Am, 19, 18, 1993  
 胃や十二指腸の潰瘍は容易に再発する病気ですが、ピロリ菌を除菌すると、再発を大幅に抑えられます。

ピロリ菌に感染している人の割合



## 3. 胃・十二指腸潰瘍を再発する人の割合

胃酸分泌抑制薬で治療できるが再発しやすい。ピロリ菌を除菌する事により約8割の人が完治し、再発もしなくなる。

## 4. 胃がん

ピロリ菌の除菌により胃がん発生率や早期胃がん治療後の再発が減ることも統計的に明らかになっている。

## 5. ピロリ菌感染率と感染経路

国内では50歳以上の6割前後が感染していると推計される。衛生環境が悪いと感染率が高くなり、若い世代ほど感染率は低くなる。

### ピロリ菌の検査方法

検査の種類	検体	検査に必要な時間	結果が出るまでの時間	検査を受けるときにすること
便中抗原検査	糞便	約1分	10分~数日*	便をごくわずか取って受診時に渡す
尿素呼吸試験	呼気	約20分	数分	薬を飲んでから、指示どおりに横になる
抗体検査	血液・尿	数分	10分~数日*	採尿する。または採血してもらう
迅速ウレアーゼ試験	生検	約15分	20分~2時間	内視鏡検査を受ける
鏡検法	生検	約15分	2~3日	内視鏡検査を受ける
培養法	生検	約15分	5~7日	内視鏡検査を受ける

8 ※迅速診断なら10分ほどで結果がわかりますが、検体を検査会社で検査する場合は数日かかります。

## 6. 除菌治療を受けた方が良い人

再発を繰り返す慢性の胃炎・十二指腸潰瘍、胃MALTリンパ種、早期胃がんを内視鏡で治療した後、原因不明の血小板減少性紫斑病など。

## 7. 除菌に注意が必要な人：高齢者、腎臓や肝臓の病気がある人、薬のアレルギーがある人など

## 8. ピロリ菌を見つける検査

内視鏡を使わない検査：便中抗原検査、抗体検査  
 尿素呼吸試験（当院除菌後に使用）

内視鏡を使う検査：迅速ウレアーゼ試験（当院診断時に使用）、鏡検法、培養法

## 9. ピロリ菌の除菌治療：2種類の抗生物質と1種類の胃酸分泌抑制薬を朝夕2回1週間続けて服用する。

## 10. 薬の副作用：約3割の人が、便が柔らかくなったり下痢をしたりする。症状がひどい場合下痢が続く場合は治療を中断する。味覚異常や皮膚のかゆみ、発疹などが現れる事がある。

## 11. 効果の確認と成功率：治療終了後4週間（抗体検査の場合は6ヶ月）以上経過後再検査を行う。成功率は7~8割。失敗の時は別の抗生物質を使用し再除菌をする。約95%の人が除菌に成功する。

村上記念病院糖尿病チーム